日吉メディアセンター 2012～2013 年 情報リテラシー教育（ILP）の取り組み

柴田由紀子（しばたゆきこ）
（日吉メディアセンターテクニカルサービス担当主任）
杉　真梨子（すぎまりこ）
（日吉メディアセンターパブリックサービス担当）

1　はじめに

日吉は湘南藤沢キャンパスを除く学部の 1～2 年のキャンパスであり，大学 1～2 年生を主な利用者とする日吉メディアセンターは，開設当初から利用者教育に力を入れてきている。特に 1996 年以降は事業計画の中心に情報リテラシー教育（以下，ILP）を据え，その拡充に取り組んできた。2003 年には本誌にて 1997 年から 2002 年までの 5 年間の取り組みについて報告している[1)]。2003 年は医学部を除く全学部で，授業の 1 コマを提供してもらって実施する「情報リテラシー入門」を開始し，カリキュラムに連携した情報リテラシーの授業を実現するという目的を一定の割合で達成した年である。本稿ではそれから 10 年を経過した日吉メディアセンターの ILP の現状を報告するとともに，2012 年～2013 年にかけて行った具体的な取り組みについて紹介する。

2　情報リテラシー入門の継続

最近 10 年間の状況を表 1 にまとめた。2003 年には,「情報リテラシー入門」を，必修，選択という履修形態の違いはありつつも，文・経済・法・商・理工のそれぞれの学部でのべ 37 回実施し，3,514 人が受講していた。しかし 2005 年以降は経済学部と文学部の授業は行われず，継続している授業は法学部，商学部，および理工学部である。また，2011 年には東日本大震災の影響により授業のコマ数が減った関係で，法学部政治学科での授業が行われず現在に至っている。

一方，固定の授業枠での実施とは別に，教員の要望に都度応じる形で行うオンデマンドセミナーも実施している。実施回数は順調に増え，ここ 5 年間は 2011 年を除いて，36～7 回と一定の回数を保ちつつ推移している。内容については，基本的な組み立てに大きな変化はないものの，利用する資料やデータベース，重点ポイントなどは，その時のレファレンス担当が試行錯誤をしながら変更を重ねている。

表 1.　日吉メディアセンター ILP 実施回数の人数

授業種別		2003 年度		2004 年度		2005 年度		2006 年度		2007 年度		2008 年度		2009 年度		2010 年度		2011 年度		2012 年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
情報リテラシー入門	理工学部	20	1,025	20	1,040	20	1,063	20	1,059	20	1,023	20	994	20	991	20	923	20	872	20	891
	法学部 法律学科	2	609	2	717	2	526	2	493	2	548	2	471	2	374	2	542	1	98	1	282
	法学部 政治学科	2	485	2	518	2	464	2	347	2	595	2	555	2	552	2	356	0	0	0	0
	商学部	9	844	9	780	10	606	10	667	10	454	9	602	10	474	10	459	10	479	10	509
	文学部	2	297	2	58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	経済学部	2	254	2	388	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	37	3,514	37	3,501	34	2,659	34	2,566	34	2,620	33	2,622	34	2,391	34	2,280	31	1,449	31	1,682
オンデマンドセミナー		6	87	14	279	28	520	29	889	32	620	36	663	36	1,181	36	867	31	392	37	687
総合計		43	3,601	51	3,780	62	3,179	63	3,455	66	3,240	69	3,285	70	3,572	70	3,147	62	1,841	68	2,369

3　2012～2013年度の取り組み

デジタルネイティブの世代の学生たちはインターネットでの検索は日常的に行っている上に，データベース技術も日々進歩しており，検索には特別な技術が必要なくなってきている。それに伴い，ILPも大教室で行う，聞くだけの授業より，ひとりひとりパソコンを使いながら授業に沿った内容で実習をしながら学ばせるほうがより効果的と考え，最近は大教室の授業を増やすよりは，オンデマンドセミナーへ力を向けてきた。内容については，検索の基本や，情報を利用する際のマナーなど従来からの必須メニューを教える意味は変わらずあると思いつつも，ここ2,3年は明らかにIT環境も学生も変化してきており，この変化にILPの内容が十分対応できているかどうか確認する必要を感じてきたところである。そのために，教員との連携を深めることや，少し試験的な取り組みも必要ではないかと考え，以下，いくつか新たに行ってきたことを紹介する。

(1) 理工学概論「情報リテラシー入門」の見直し

1997年から始まった理工学部の「情報リテラシー入門」の内容に関して，ここ数年は担当教員と特別のやりとりは行われていなかった。そこで2013年度の授業を行う前に，担当教員と意見交換を行い，盛りだくさんになりすぎていた内容を見直し，情報の探し方を詳しく説明するよりは，探した情報をいかに正しく使うか，という点にポイントを置いた内容に変更した。

(2) 読書のすゝめ！スポット講座

授業内で行われるILPとは別に，図書館の活用方法や資料の探し方を紹介する講座を館内で実施した。4月には，1階ラウンジで行った「読書のすゝめ！展示『どこでも図書館―KOSMOSにアクセスしてみよう！―』」にあわせ，計9回のスポット講座を行った。内容はすべて，スマートフォンで図書館（資源）の利用を促すことを目的とし，①図書館HPをスマホで使う，②KOSMOSをスマホで使う，③電子ブックをスマホで読む，の3種類の講座を3回ずつ行った。参加人数は各回1～5名程度と多くはなかったものの，アットホームな雰囲気の中，学生の意見を直接聞くことができ，また参加者の反応もおおむね好評であった。

(3) 学習相談「レポートの書き方講座」

2012年度より日吉メディアセンターでの学習相談活動の一環で，レポートの書き方講座を実施している。これはレポートの書き方の相談活動を行う学習相談員が講師を務め実施するものである。今年度はレポートの書き方（50分間）に加え，レファレンス担当職員が資料の探し方（20分間）の講座を行い，レポートを書く上で必要となる資料集めのポイントを紹介した。

(4) 教員からのフィードバック

受講する側のニーズに応じた内容の質の変化は，ILP活動を行う上で重要なポイントとなる。そのために，今年度より担当教員から実施したセミナーに対するフィードバックをもらい，積極的に反映させる取り組みを始めた。2013年8月1日現在，15名の教員より意見をいただいている。

(5) 教養研究センター「はじめてのアカデミック・スキルズ　―10分講義シリーズ―」

メディアセンター主体の取り組みではないが，2012年度には，教養研究センターの事業である映像講義「はじめてのアカデミック・スキルズ　―10分講義シリーズ―」の講師として，①情報や資料の種類とその利用方法について（浅尾千夏子），②情報検索の基本とデータベース（柴田由紀子），③KOSMOSの使い方（杉真梨子），以上3つの映像講義作成に協力した。この映像は教養研究センターのウェブページ上で公開されている[2)]。いずれも基本的な内容なので初学者向けのコンテンツとしてメディアセンターとしても利用を考えたい。

4　今後の取り組み

まず，ILPの内容を点検するためのフィードバックを学生からももらい，春学期に得た教員からのフィードバックと合わせ，セミナー内容に反映させる予定である。講義を受けるのは学生であるため，彼ら自身の理解度を確認するとともに，どのようなニーズを持っているのかを探り，より主体的にセミナーに取り組めるよう模索していく。

日吉メディアセンターにおけるILPを取り巻く環境は，ILPを実施するレファレンス担当者の減少や4学期制を視野に入れた学事日程の導入により，まさに内外ともに大きく変化している最中である。現在広く実施しているセミナーや授業での取り組みを継続する一方で，多様さを増すカリキュラムへ対応できるよう，柔軟なILPを実施する体制を，職員

だけでなく教員や学生とともに探っていきたい。

注

1）山田雅子．日吉メディアセンターにおける情報リテラシー教育の取り組み．MediaNet．2003, no. 10, p. 32-35.

2）“はじめてのアカデミック・スキルズ　―10 分講義シリーズ―”．慶應義塾大学教養研究センター．http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/education/culture/academic.php#movies,（参照 2013-07-30）.